

74新破天荒



令和四年度版
創刊
第9号

職員室前の風景

職員室沿いのホワイトボードに、生徒向けの伝言を記入しなくなつてから一ヶ月が経ちました。

十一月の学年通信で、生徒達、保護者に向けても投げかけた話題も、何事もなく、何事もなかったかのように一か月が経ち、今日からの二学期期末考査を迎えています。

先週には、文理選択本調査申込も締め切りでしたが、保護者の目から見られて生徒の皆さんの中に、普段の生活に対して、何か感じるものがありますか。

十一月二日の、第二回全国模試の日の六時間目に、前月学年通信に掲載させて頂いたような内容で、生徒達に話をさせて頂きました。それ以降、できる限り自分の主観で話することもなく、生徒に自分の意見を押し付けることもなく、淡々と日々の生活を過ごしております。

逆に、生徒の皆さんの行動から、エネルギーシユナ力を感じることができれば、今どきの新しい生徒対処法として、自分の指導を広げることになるのかと思っております。

いろんな立場からの様々なご意見を頂きたいのですが、なかなかその機会を創り出すことができず申し訳ありません。



一、樟脳(特殊な芳香のある無色透明の板状結晶)かつては蘇生薬として知られていた。
二、だめになりかけた物事を蘇生させるのに効果のある措置。

(デジタル大辞泉より)

世界大百科事典によると、「覚せい剤取締法によりその使用は厳しく制限されている」とある。つまり、即効性、強刺激性はあるが、継続して使用するものではなく、また、神経のみならず精神までも効果も麻痺感覚を引き起こすものであるということです。
生徒の雰囲気不安を感じて、つい「カンフル剤」を使うと言いがち、行動としても演じがちでしたが、安易に使うことがないよう、自分に戒めておきたいと思えます。



聞く力とは また 何でもできるとは

ごく最近ではないのですが、「私には聞く力がある」という言葉を耳にしました。「聞いてもらえた」と思うことができたとき、「あの人は聞く力がある」と思うものではないかと私は思うのですが、皆さんはいかがでしょうか。

一兵隊と隊長では、責任の大きさも勿論違いますが、それでも、多方面からの要望についてどう優先順位が付けられているかが納得できるものであり、要望を認めてもらうためにまだ不十分なものや、道筋のヒントを指摘されれば、お互いの否定のし合いではなく、建設的に達成のための議論をぶつけ合えるのでは。

いろんな場面で、そろそろスキャンダルつつき合いから、建設的な話ができることを期待します。
同じような話で、ある国公立大学の何某学部の謳い文句で「うちの学部は何でもできる。建築、栄養、教員などなどと、何でもござれ(は言い過ぎか)。」
共通テストの合格目安基準も大変高く、本校生徒に限らず、兵庫県内の特に西播磨地区の高等学校では異常な人気校です。

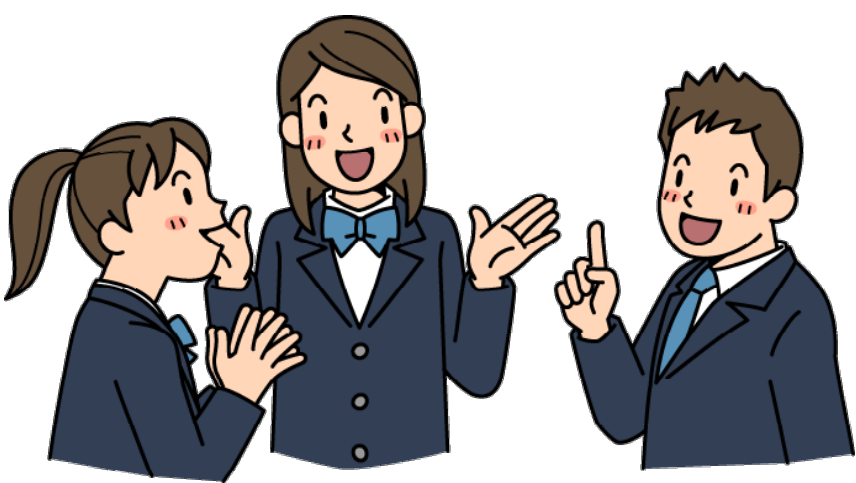
入学という入り口に対して、出口の話を示されることあまりないので、インターネットで情報を複数仕入れてみました。
大学受験パスナビによると、二〇二二年三月卒の情報では、兵庫県庁・姫路市役所各五、加古川市役所・西脇市役所各三、コープこうべ、神戸信用金庫、大阪国税局など・・・とあります。

公務員関係での結果が卒業生の一割強という成果です。

また、当該大学のHPには、就職先の企業名等が並んでいます。ただ残念なのは、何処を見ても建築士を目指す進学生、管理栄養士等の国家試験受験者および受験結果が、私が探す限りでは見つけることができませんでした。

折角、大学の目玉として高校生に発信しているのだから、その受験結果を知りたいと思うのは私だけでしょうか。それとも、意図的に発信をしていないのか?

多様性は大切な時代なかしれません。それでも、いつかは専門性を伴う選択が必要です。先延ばしにされればされるほど、人は臆病になり、勇気を絞り出すのに多くのエネルギーが必要です。
やはり、大学受験のタイミングは、決断をするには絶妙のタイミングだと思います。



今月の ……の勧め

五月	「無駄」
六月	「諦めない」
七月	「捨てる」
一学期末	「チャレンジ」
九月	「迎る」
十月	「テレビ」
十一月	「大空間」
十二月	「無」

最近、朝の窓開けのついでに、トイレの床磨きをしています。きっかけは、前述のホワイトボードにかける時間が浮いた関係で、以前から気になっていた、トイレや廊下の床、壁掃除をすることに時間を使うことにしました。

スポンジで一度磨けば、結構綺麗になるのではと思っていました。甘い考えで、毎朝三か所のトイレは床磨きから卒業させてくれません。

現在売れに売れている漫才コンビの母校（私学）のトイレ掃除の仕方が、我々の高校生の頃に話題となることもありましたが、いざそういう時間を過ごしている、なるほど、いい加減な気持ちでトイレは綺麗にならない、トイレってキーポイントだなあと言うことに気付かされます。トイレの綺麗なコンビは、確かに賑わっていますよね。

無心になってこんな時間を過ごしていると、生徒のいろんなものが見えてきます。朝練習に精進している者、遠く離れているのに視線を感じて窓開けの際に会釈してくれる者、普段はなかなか声にならないが、一対一だと自然と挨拶してくれる者……。

不思議と前向きな発見が多いものです。ただ時代なのでしょう。清掃道具の傷み具合であるとか、清掃方法では、道具に手をかけて埃や髪の毛を手で取り除けなかったり、自分たちの当番ではないから気にしない、という事でもないので残念に思うことが……。

ご家庭でも、もしお話しする機会があれば、一つのエチケットとして、自分のことだけでなく行動ができる、成熟した大人へと階段を上らせてもらえるよう、期待したいと思います。

芸術鑑賞会



十一月十四日月曜日午後、アクリエ姫路に於いてゴスペルグループ「スターライツ」を招いて、本校芸術鑑賞会が開催されました。移動の際に、JRの遅延があり、開演に影響が出るかと思いましたが、生徒の適切な対応により、予定通りに開演を迎えることができました。

後述で生徒の感想を掲載させて頂きますが、生徒の心に響くものが強くあったようです。何を以って本物と呼ぶかは難しいところですが、何かしら生徒に伝わるものがあつたことは間違いのない、素敵な芸術鑑賞会であつたと思います。感性を大切にしながらに磨いてもらえれば、と思うばかりです。

因みに、私はこの縁でマイケルジャクソンが歌う本物の「Heal The World」のユーチューブ動画を観ました。「We are the World」も思い出しましたが、いま世界で起こっていることと映像がマッチするのは前者の方でした。

翌日生徒に配付させてもらったプリントについてですが、自分自身の当たり前に慣れてしまつて、それを頑張らせる、頑張れというのが当たり前慣れ過ぎていたのかも気持ちで、作つてしまいました。ただ一方で、歌われていた曲の一つ「Story」の出だしにもあるように、あなたたちには

「限られたときの中で
どれだけのことが出来るだろう」

どれだけのことをしたい、求めているのだろうか？
どれだけのことを要求しないといけないのだろうか？
とも思っています。

十二月の予定

一日(木)～七日(水)	二学期期末考査
七日(水)	神戸大学にて留学生との国際交流 (一年生希望者の参加あり)
八日(木)～	短縮授業(三、四、五、六限) (木曜は五、六、三、四限)
十二日(月)	薬物乱用防止講演会
十三日(火)	教育相談
十六日(金)	高大連携岡山大学訪問 (一年生希望者の参加あり)
二十日(火)	教育相談
二十一日(水)	クリーンアップ作戦
二十二日(木)	大掃除・ワックス掛け
二十三日(金)	終業式
二十五日(日)～二十七日(火)	バレーボール大会会場校
二十八日(水)	仕事納め
一月	
四日(水)	仕事始め
九日(月)	成人の日
十日(火)	始業式・課題考査
十二日(木)	進路希望調査
十四日(土)～十五日(日)	大学入試共通テスト
十七日(火)	教育相談
二十日(金)	総合学力テスト

散歩道74
クラスコード
5luczkw

先月も、空手部・バレーボール部と活躍してくれました。空手部は近畿大会に出場することになり、女子バレーボール部は県ベスト4の活躍でした。

若力 主役は自分たち

空手部女子は、十月二十八日に行われた新人大大会団体組手競技で、近畿大会出場を決めることができました。

これまで近畿大会を目標に日々練習してきたので、それが報われてとても嬉しいです。しかし近畿大会は県大会と違い、勝ち残ったチームと闘うことになるので、自分と相手との力の差がどうしても出てしまうと思います。ただ、どんな相手でも物怖じすることなく、気持ちで負けないようにしたいです。

また、相手との差が少しでも埋まるように、大会までの残りの期間、チームで互いに高め合いながら練習して、成長していきたいと思います。近畿大会で後悔が残ることのない試合ができるように頑張りたいです。
(二組 富井 心美)

私は、初心者で空手道を始め分らないことばかりでしたが、仲間や先輩、先生方が一から丁寧に教えて下さり、団体組手では、目標であった近畿大会出場を決めることができました。前日にあった個人戦では、練習してきたことを思い通りに発揮することができませんでした。団体戦では練習でやってきたことをしっかり意識して戦い、対戦相手に勝つことができました。すごく嬉しかったです。でも、次に戦った相手はとても強く、なかなか点数を取ることができませんでした。

近畿大会に行くと、このような強い相手ばかりだと思います。しかし、そこで怖がって何もできずに終わってしまうと意味がないので、残りわずかな練習時間で、できることを精一杯するとともに、自分達より強い相手と対戦できることに感謝し、経験を積んで行きたいと思っています。
また、県新人大大会ではできなかった「試合を楽しむ」ということを、近畿大会ではできるように頑張ります。
(二組 田中 葵)

この度、私は女子団体組手で近畿大会に出場することになりました。私は高校に入学してから空手道部に入部し、空手を始めました。ですが、この半年間、先生や先輩、友人、そして家族の支えがあつてここまでできることができました。支えてくださった方々には感謝してもきれません。怪我をして一時は練習をすることができない期間がありました。これを乗り越えられたのも、支えてくださった方々のおかげだと思います。

近畿大会は一月後です。この一月で何ができるのか、何をしないといけないのか、しっかり見極めて練習しないと、あつという間に大会を迎えてしまうと思います。

なので、自分にいまできることを考え、行動し、大会に向けて準備していきたいです。まだまだ未熟ではありますが、精一杯頑張ります。
(二組 中田 安佳音)

今回近畿大会に出場できるのは、先輩方とともに刺激し合い、高め合った成果が出せたからです。

トーナメントの関係で一回戦を勝ち上がると近畿大会に出場できるとは言え、近畿大会出場という意識よりも、二回戦で当たるであろう県内最強の高校とどう戦うかの気持ちが強かったです。レベルの差

があるのは分かっているのですが、なおさら不安が募りました。私の相手は総体でも戦った選手で、とても強い選手でした。リベンジをかけた試合だったので、4点取ることができて、以前より私が確実に進化していることを実感できてとても嬉しかったです。これは、日々の練習を頑張ってきたからだと言えます。

近畿大会では、県内最強の高校よりレベルの高い高校もあります。一回戦から優勝校と当たるかも。でも、勝ち負けでなく満足できる試合をしたいです。
(三組 船田 勇志)

この度僕たち空手道部は、団体組手競技において、ベスト8入りを果たすことができました。チームとしては好成績となりましたが、僕個人としてまだまだ納得がいく動きができていないのが現状です。

近畿大会という他県の強豪校が多く集まる大会においては、個人の實力が必要不可欠となってきます。そのため、大会まで残り多くない練習の中で先輩方に追いつけるように、一つ一つのことに前向きに全力で取り組みたいと思います。また、一日でも早くイメージする動きができるように頑張ります。

そして、皆が試合で實力を十分に発揮できるように、練習から良い雰囲気を作れるようにし、団体戦で皆で奮闘する、その自覚を持って頑張りたいと思います。

滋賀まで行ってつまらない試合をして、後悔して終わりにならないように、気合を入れて今できることに力を尽くしていきたいと思っています。
(三組 中水 龍也)

十月末に行われた県大会では、団体戦で近畿大会出場を決めることができました。今回の大会は實力で近畿大会出場を決めたというよりは、くじ運が良

くて勝てたという感じだったので、正直大きな達成感や成長が感じられた試合ではありませんでした。今大会を振り返ると、他校生部員が、自分達よりも格上の相手に対して、諦めずに挑戦し劇的な試合をしている中、私達は強豪校を目の前にしたとき戦意を失ってしまい、勝ちに行く試合ができなかったことに、恥ずかしさと情けなさを感じました。

私達より實力のある学校が、近畿大会出場を果たせない中、頂いたチャンスを県大会と同じような試合で終らせないように、また、自分達の中で成長を感じられる試合にできるように、近畿大会までの限られた時間の中で、自分とチームの課題と向き合いながら練習したいと思っています。

そして、近畿大会では挑戦者として新しい気持ちで勝負ができるように頑張りたいです。
(四組 梶原 つかさ)

私達は、十月末に行われた兵庫県高等学校空手道新人大大会で一回戦を勝ち進み、女子団体組手競技で近畿大会に出場できることになりました。しかし、勝てたといっても個人として大会を振り返ると、決して容易に勝てたわけではありません。また、二回戦目の試合では集中力が切れてしまい、相手にポイントを入れられ、気が付いた頃には試合が終わっていました。

なので、試合を何度しても、自分のベストの状態で臨めるような集中力と体力、時間やポイントなど、その時々で状況を把握できるように視野の広さなどを、今よりも伸ばしていきたいです。

県大会とは違い、さらにレベルの高い大会なので、勝つことは難しいかもしれませんが、けれども、試合前から相手に気持ちで負けるなんてことはしたくありません。そのため、弱気になるのではなく楽しむことを大切にしながら、残りの時間で仲間とともに切磋琢磨していきたいです。
(四組 宮原 葵)

ベスト4の闘いの場に触れて感じたことは、二つあります。

まず一つ目は、空気が今までは違った緊張感に包まれていると思いました。それまでも緊張感があります、決勝の舞台も目前に迫っている、選手は勿論のこと、応援にもより一層の気合が入るからと言うのが理由の一つだと思います。

二つ目は、自分もコートに立ちたいと改めて強く思いました。今まで何度も観てきましたが、応援をされていてコートに立っているレギュラーメンバーを見たとき、やはりレギュラーって格好いいと思ったので、自分もあの場所に立てるように、また立つために、自分に足りないものを見つけたり、苦手を少しでも得意に近付けるようにすることなど、日々の積み重ねが試合に出ると改めて思いました。

練習を一生懸命しても試合で十割の力が出るとは限らないと、尼ヶ塚先生が仰っていて、本当にその通りだと思いました。だから、一日一日の練習を大切にし、自分ができる最大限のことにしたいです。

(四組 牧本 紋佳)

「春高バレー」という大きな大会の予選がありました。私は出場させていただきました。この大会を通して、改めて先輩の存在の大きさを実感しました。大きな体育館、沢山の観客、大きな声援の中での試合は緊張しました。そんな中で、「自信を持って！大丈夫！」という先輩の声掛けは、緊張を自信に変えてくれました。一緒にプレーしていて心強い人たちがばかりです。

この大会で、二人の三年生は最後だったので、勝利で次に繋げてまだ一緒に練習して、カッコいい姿を見ていたかったです。

今大会で一位を取れなかった悔しさを忘れず、次こそは一位を取るために、より一層頑張ります。

そして、支えられるだけでなく、次は私が皆を支

えられるようにしたいです。今大会で経験したことを胸に、これからの大会の一つ一つで勝ち進めるように頑張ります。

(五組 木下 麗音)

十一月五日・六日に、三年生の先輩方にとっては最後の公式戦である春高予選がありました。私は試合に出ることができませんでしたが、試合をコートの外から見ている学べることがたくさんありました。

以前先生が仰っていたように、「大会で一〇〇%の力を出すのは難しい。だから、練習からもっと必死にプレーする」という言葉の意味が、改めてよく分かりました。大会では、試合に出ない私も緊張感をもつほどの会場の空気で、歓声や応援の声でいっぱいでした。そんな中で、いつもと違う体育館でプレーし全力を出すのは難しいと思います。だから、練習から一〇〇%以上の力を出し切ることが大切だと思いました。

春高予選は試合に出ることができませんでしたが、次の大会では試合に出て、チームに貢献できる選手となれるよう、一〇〇%以上の力で練習に取り組めます。そして、コートの外から見て学んだことを活かし、次の大会に繋がります。

(二組 伊賀 桜空)

今回の大会で、目標としていた「春高出場」は達成できませんでしたが、この大会では、自分が思うようなプレーができず、周りのレベルの高さや、自分の実力のなさを痛感しました。

しかし、残って下さった三年生の先輩方のプレーから、多くを学ぶことができました。ボールを最後まで追いかけたり、一つ一つのプレーを丁寧にし、一本に対する強い気持ちを持つ姿などです。私も普段の練習から、自分の役割をしっかり考え、苦手なところを徹底的に練習していきます。

また、来週十一月十九・二十日に新チームの大会

が始まります。目標を達成できるように、自分たちの力をすべて出し切れるように頑張ります。私学とは練習時間が違いますが、その差を埋められるようにするために、効率よく内容の濃い練習をすることでカバーしていきたいと思えます。守り固めという自分の役割をしっかり果たし、チームに貢献できるように頑張ります。

(二組 藤力 結美)

春高バレー兵庫県予選大会の結果はベスト4でした。県の中で四番目と考えると、すごいと思えますが、あまり満足はしていません。

最後に対戦したのは私立の高校です。公立が私立に勝つには難しいかもしれませんが、練習量だったり、設備が良かったりなどの差もあります。しかし、私は勝てない相手ではないと感じました。セットの前は相手とやり合えていたからです。しかし、後半になるとミスが続き、点差が大きくなってしまいました。最後まで気を抜かないことが大切だと感じました。そのためには、一本一本の練習を試合のように集中力を高めて行い、集中力・持続力を身に付けなければなりません。練習時間は短くても、濃密な練習を続けることが、強いチームに勝つ鍵だと思います。ですが、点差が離れてしまっても最後まで諦めずに戦う姿勢は格好よく感じました。私もそんな選手になれるよう努力します。

(二組 奥 梓水)

十一月五日から「春高バレー」兵庫県予選がありました。チームの目標は優勝です。私は試合に出られなかったのですが、レギュラーのアップのボール出しや、荷物運び、水筒の補給など、チームのためにできることを、自分なりに考えて行動していました。

また、皆ができるだけ普段と同じようにプレーができるように、緊張していそうな人に声をかけてみたりしました。しかし、分からないことがまだあり、

先輩に聞いたことがあったので、次の大会は自分達で動けるようにします。試合結果はベスト4でした。

チームの課題もたくさんわかりました。今週も試合があるので、チームのために行動します。チームのための力になることは、試合に出ることだけではないうと思うのですが、少しでも試合に出られるように武器を作ってチームに貢献したいです。そのために、一本一本ポイントを意識し、大切にして練習を頑張りたいと思います。

(二組 塚本 五和)

私は、十一月六・七日に行われた全日本高校選手権大会兵庫県予選に、マネージャーとして参加しました。結果は三位でした。マネージャーを含めて、チーム全員が「絶対春高に行くぞ！」と熱い想いを胸に日々練習に臨んでいたのです、すごく悔しかったです。春高へ出場するための切符を手に入れることは、想像していたよりも高い壁でした。もっと一人一人、何が姫路南の武器で、戦力なのか、弱点は何かを理解したうえで、それらを磨く練習をすることが大切だと実感しました。

私はマネージャーなので、試合に出てチームに貢献することは実際にはできません。しかし、平日の放課後練習や、休日の練習を通して、選手が集中して練習できる環境を少しでも整えたり、作ることで、選手をサポートすることはできます。そして、それがプレーにつながっていくと信じています。

次の大会に向けて優先事項を決め、効率よく練習していき、強くなります。

(三組 井村 愛望)

十一月五〜七日に春の高校バレー兵庫県予選大会がありました。私は試合に出ることはできなかったけれどもスタンドから応援したり、クイックモツパ―として、試合を間近で見ることができました。

中学生の頃から、大きな大会に出ることやその場の雰囲気味わったり、勝って次の大会につながる切符を獲得することにとっても憧れがありました。

でも、その夢は簡単に叶えることができなかった、悔しい想いをたくさんしてきました。だからこそ、先輩方へここまで連れてきてもらって味わうことができた景色や熱気、雰囲気などに感動しました。

最後の最後まで諦めずにボールを追いかけて、打ち抜いたり、声を掛け合ったりする先輩の姿は目に焼き付いています。今度は自分がその立場になれるよう、これからの部活動に取り組んでいきたいと思えます。先輩方が一生懸命戦う姿を見て、格好いなと思ったので、自分もそんな先輩に慣れるよう頑張っていきたいです。 (三組 利根川 実咲)

私は、夏の県予選の際は先輩方の応援をしていました。そのときに見た先輩方の、最後までボールに食らいつき、必死に闘う姿が強く目に焼き付き、私も一緒に同じコートに立ちたいと、強く思うようになりました。

それから、春高に行くことを目標に先輩方と練習に励んできました。コートに少しの間でも立つことができたものの、ベスト4にもなると相手のレベルも上がり、迫力やスピードは今までと違って、自分の未熟さを痛感しました。この悔しさをばねに、ベスト4という大きな舞台を経験させていただいたことを生かし、日々の練習に全力で取り組みます。ベスト4という結果に満足せず、春高を目標に、先輩方が作ってくださった伝統を受け継ぎ、日々成長していけるように頑張ります。

(三組 森中 麻友)

私は「絶対春高に行く」という気持ちで、今回の大会に挑みました。三年生の最後の大会ということもあり、普段とは違った雰囲気や緊張感がありました。

初戦やベスト8の試合でいつものようなプレーができず、焦ってしまう場面もありました。しかし、そんな自分に声を掛けてくださる先輩方の姿に支えられました。

ベスト4の試合では、相手の迫力やスピードも今まで以上にレベルが上がっていて、大事な場面や一点を取らないといけない場面で攻めきれず、プレーを思い切つてできない自分のメンタルの弱さを痛感しました。

日々の練習で、どれだけ試合を想定し、質の高い練習ができるかが大事だと分かりました。

この悔しさを無駄にせず、礼儀や挨拶、日常生活からもう一度徹底し直し、次の大会で優勝できるように、自分の弱点を少しでもなくせるようにします。今まで戦績を残してくださった先輩方の思いも胸に、これからもプレーしていきたいです。

(四組 村上 里緒)

十一月六・七日にあった春高バレーで、大変貴重な体験をさせて頂きました。この日のために沢山の練習をしたことから、毎日の練習はとても大切だということを感じました。

一年生で、今回の試合を目の前で観ることができて本当に良かったです。特に、大きな会場で雰囲気を感じたことや、三年生の先輩方の最後の大会での素敵な姿を目に焼き付けることができました。三年生の先輩方は、この大会で私達に数多くの大切なことを教えてくださいました。

そして、この大会では出場しないかもしれないが、出場した時のために、練習で学ぶべきことが沢山あることも感じる事ができました。

また、私達の活動の背景に、たくさんの方の思い

があり、バレーボールを日々当たり前にできていることに感謝すべきだと思いました。

どんなことをする時でも、前向きに挑戦していくことを忘れず、そして高い目標を持ち続けて、これからも毎日の練習に取り組んでいきます。

(四組 吉井 彩花莉)

春高予選を経験して思ったことは、三年生の先輩方にとっては、勝てば春高、負ければ引退という、大きな価値がある大会に、一年生のうちからプレーさせていただいたことに、まずは感謝しています。夏の総体の時の雰囲気とはまた違う空気がピリピリと肌で感じました。

結果はベスト4で、不完全燃焼という形で終わってしまい、反省が大きく残りましたが、自分達が不調の状態でも、園田高校戦まで勝ち切れたことは今回の一つの成果だと思います。

私学よりも練習量が少ない分、工夫してご指導をさせて頂いた尼ヶ塚先生には本当に感謝しています。

たかが一つのプレー、気持ちかもしれないけれど、それが大きな勝敗を分けるのに繋がっているのだということ、試合を通してはもちろんのこと、他のチームの試合前の雰囲気などからも強く感じました。そして、今回の大会にも一緒に来て下さり応援して下さいました保護者、毎日体育館で練習できる恵まれた環境、ご指導して下さいました先生、何よりも、ライバルながらも切磋琢磨してきた仲間感謝し、これからも練習を頑張ろうと思います。

(五組 大橋 萌花)

十一月五〜七日にかけて、春の高校バレー兵庫県予選大会がありました。スーパースードだったため、六日に一勝した時点で兵庫県ベスト8に入りました。

体育館に入ると、メガホンの音や会場の熱気に包まれて、とても感動しました。今まではコロナ騒動で入場観客数が限られていたので、大きな会場に今までよりもかなり沢山の人が集まっていた、新鮮でした。私はベンチで応援することしかできなかったけれど、間近で試合を見ることができました。最後まで諦めずにボールを追いかけている先輩の姿が、私の記憶にはとても強く残っています。どんな体勢でもボールをあげにいこうと見て、自分もあんな風

になりたいと思いました。試合の流れが変化するときや、ラリーが続いたときの点数の取り方など、試合を見ていて吸収するところが沢山ありました。ここまで連れてきてくださった先輩方に感謝して、自分も試合に出て活躍できるような選手になるために、日々の練習で一つ一つのプレーを徹底していきたいです。

(五組 石田 優羽)



ゴスペルに 揺り動かされた魂

僕は、今回の芸術鑑賞会で、初めて「圧巻」というものを感じた。ゴスペルを知らなかった僕の心は、その大迫力に始まってすぐに魅入られた。その瞬間、僕の視線はステージに吸い込まれ、耳はその音を一言も逃さず聴こうとしていた。

今まで、「音学」の鑑賞もちゃんとしていたし、姉のマーチング大会等も観に行ったことがあったが、今回の方が比べ物にならない程の衝撃だった。最初は音だけに関心が向かっていたが、落ちていくと、後ろのホリゾンと照明も曲調に合っていることにも気付いた。また、曲間にある「ゴスペル」についての基礎知識を話して頂けることで、以降の曲への思索を深めてくれたりと、今回の芸術鑑賞会を盛り上げる工夫も多くされていた。

ゴスペルは、元は教会の中で歌われる歌と言っていた。僕は、歌い手の工夫に溢れたゴスペルの魅力が教会内だけでは小さ過ぎたから、世に広まったのかなあと考えた。(二組 中村 颯汰)

「視覚・聴覚・感覚をフルに楽しませるエンターテインメント溢れるステージ」、まさにその通りだなと思いました。

歌声は勿論のこと、話す時の声の抑揚や目線の振り方、身のこなし、一つ一つの所作が丁寧でとても美しかったです。大勢の観客の舞台でも、細かい所まで気を配れる「プロ」の演者さんから学んだことが沢山ありました。アップテンポな曲からしっとり系、そして最後のクライマックス。手拍子に合わせて変化する照明。

演者さん以外にも、観客を心から楽しませる為の様々な工夫がこらされているんだなと気付きました。一分一秒が鮮烈で、とても濃い時間でした。

ゴスペルを鑑賞したのは今回が初めてでしたが、こんなにも貴重な体験をすることができ、とても嬉しく思います。今回学んだことを部活動でも生かし、スターライツさんに少しでも近付けるように頑張ります。(二組 井口 実優)

芸術鑑賞会を終えて、音楽の力はすごいものだなと感じました。演目が始まった瞬間、会場がスターライツの皆さんの声で包まれて、びっくりしました。その後も、とても素敵な歌声で私達を魅了してくれ、とても格好良かったです。

歌声だけでなく、教会音楽・クラシック・黒人音楽が融合したゴスペルについても話して頂き、音楽で世界を平和にできることを知りました。普段生活する中ではあまり聞かない音楽なので、この度鑑賞することができてよかったです。

また、スターライツの皆さんが手拍子をしたときに、皆が同じリズムで手拍子をしている姿を見て、音楽でみんなが一つになれるのはとてもすごいことだなと思いました。

この芸術鑑賞会で、芸術のすごさを知りました。これからも機会があれば、他の音楽を聞きに行ったり、ミュージカルなどを観に行きたいと思いました。芸術鑑賞会は、僕にとってもいい経験になりました。(三組 甘崎 成陽)

この音楽鑑賞会で様々な音楽を聴き、歌の持つ力に気付かされました。

アップミュージックでは、手拍子で歌を盛り上げたり、初めて聴いた曲でもスターライツの皆さんの歌声に引き込まれました。(五組 福本 紅)

アップテンポミュージックはとてもリズムカルで、全体で曲を表現したり、JPOPミュージックの柔らかな歌い方の曲では、穏やかな気持ちになって、歌詞を強調して力強く歌う曲は心に響いたり、音楽は人の感情を動かすものだなあと思いました。

また、それぞれ違った個性が合わさったとき、すぐきれいな歌声に圧倒されました。いつもは何気なく聴いていた曲や、初めて聴く曲にしる、どの歌にも沢山の想いが込められていることを知り、歌詞に注目して聴いてみると、いつもとはまた違った歌に聞こえました。

この芸術鑑賞会を通して、改めて音楽は人の心を動かすものなのだと思います。スターライツの個性豊かな歌声で音楽の素晴らしさを感じました。(四組 黒瀬 遙香)

芸術鑑賞会という素敵な時間を、今日体験させて頂きました。大ホールの大きな舞台に、たった五人だけとは思えないほどの音量で、ありきたりな感想ですが感動しました。

感動とはいっても、絵を見て感じる静かな感動とは違い、体の奥から何か明るい光と一緒に飛び出して、楽しくて音楽に合わせて自然に動き出しそうな、そんな感動でした。改めて頂いたパンフレットを見て納得。音楽によって変わる舞台の変化に、視覚はステージ開始から、耳に入ってくる様々な音楽によって聴覚は刺激され、この短い時間で感覚をフルに使う楽しませてくれる、そんな鑑賞会でした。

ステージの合間にあるお話も楽しく、私が素敵だと思ったのは、普段は別のお仕事を持っておられて、そのうえで音楽の活動もされているというお話です。自分の一生の仕事を持ち、他にこれだという趣味や好きなことを続ける自分に余裕の持てる、そんな大人に私もなりたいと感じました。今日はいつともより気持ちに余裕が持てました。(五組 福本 紅)

ゴスペルと言われても、あまり馴染みがなかったのですが、今回の芸術鑑賞会で実際に聴くと、宗教音楽で思い浮かべるような教会で歌われている、神聖で厳かな感じではなく、どちらかというと楽しくてノリノリな曲調で、とても楽しく鑑賞することができました。

鑑賞会の途中で黒人霊歌というジャンルもありました。黒人が奴隷状態に置かれていたなかで、希望などを歌っていたものですが、辛い状態の中でも明るい曲調の曲もあって、当時の黒人の思いを想像して聴くと、少し悲しくなりました。一方、合唱形式にもなっていてハーモニーも楽しめました。Jポップのようなコンテンポラリー音楽にも、ゴスペルと関係があるものもあり、知っている曲も多く手拍子をしたり、手を振ったりして楽しめました。

ゴスペルは、アカペラだけでなくピアノの伴奏があったり、アレンジもあって特に縛られず、自由な音楽という印象となりました。(五組 藤原 夕里那)

今回は、多くの生徒の文章を掲載させてもらいました。表現を強く要求される時代。是非、このような機会を生かしてください。